最近のできごと

1．回収率に基づく料金の徴収に向けての準備

平成16年7月6日に開催された運営専門委員会で平成17年度から回収率に基づく料金の徴収が承認されました。今年度は実施に向けて以下の準備を進めました。

青葉山地区を担当する極低温物理学部では今年度は薬学研究科および工学部マテリアル棟からの回収配管による回収を開始し、これで、回収を希望する研究科・建物からの回収体制がほぼ確立いたしました。さらに回収体制を強化するために、コンプレッサー1台を追加導入いたしました。また、回収率測定のために、新たに物理新棟回収室、巨大分子解析研究センターに流量計を設置いたしました。

片平地区を担当する低温科学部では、片平キャンパスヘリウム回収網につながる各研究所のヘリウム回収施設（計13カ所）に新たに流量計を設置する計画を進めています。平成17年3月末までに工事が終了し、平成17年度より建物ごとの回収率測定が可能となる予定です。

2．新しい共同利用研究機器の設置

本年度から理学研究科物理学専攻から1Tおよび7T SQUID磁化測定システムを青葉山極低温物理学部に移管してもらい、共同利用研究機器として使用することとなりました。性能等の詳細は共同利用、共同研究機器一覧をご覧ください。

低温科学部では、共同研究機器として昨年度末、新たにトップローディング式 ^{3}He クライオスタットを導入し、今年度より稼働を始めました。実験装置をウォームアップすることなく試料の交換が簡単にでき、かつ300 mKまでの低温に数時間で到達することができます。また最低温度で長時間保持する実験も可能です。現在は磁場中輸送特性測定のみですが、除々に測定のオプションを増やしていこうと考えております。

今後も汎用の共同利用機器、共同研究機器の充実につとめ、効率的な研究資源の活用を行いたいと思います。